芸閣

～図書館だより～

第１０号
２０１９年２月
桐蔭図書館発行

芸閣…「うんかく」と読みます。
書庫、書斎という意味です。
（「**芸**」は書籍に挿む虫除けの香草）

春一番

「春一番」という言葉を知っていますか。春一番は、立春（２月４日）から春分（３月２１日）の間に、その年に初めて吹く南寄り（東南東から西南西）の強い風のことです。主に太平洋側で観測されます。春一番が吹いた日は気温が上昇し暖かくなるのですが、翌日は西高東低の冬型の気圧配置となり、寒さが戻ることが多いそうです。

今年、北陸地方では２月４日に春一番が観測されました。最も早い春一番です。近畿地方の春一番はまだですね。昨年は３月１日に観測されましたが、近畿地方では春一番が観測されなかった年もよくあります。さて、今年はどうでしょうか。

※立春、春分の日は年によって変わります

第160回芥川賞直木賞決定！

芥川賞
『二ムロッド』上田岳弘 著　講談社
『１R１分３４秒』町屋良平 著　新潮社

3冊とも図書館にあります

直木賞
『宝島』真藤順丈 著　講談社

中３、高３のみなさんへ

借りている本は、卒業までに忘れず返却してください。

中学校卒業生は、高校生用の利用者番号に切り替える作業があるため、高校入学まで本を借りることができません。

高校卒業生に対しては、受験対策等の特別な事情がある場合にかぎり、３月中も本を貸し出します。図書館へご相談ください。

（裏面に新しく入った本の紹介を載せています）

新しく入った本の紹介

小　説

『どんまい』重松清著 講談社
『君はレフティ』額賀澪著　小学館
『記憶破断者』小林泰三著　幻冬舎
『注文の多い注文書』小川洋子著　筑摩書房
『潮風エスケープ』額賀澪著　中央公論新社
『ある男』平野啓一郎著　文藝春秋
『ひとつむぎの手』知念実希人著　新潮社
『スマホを落としただけなのに』
志駕晃著　宝島社
『熱帯』森見登美彦著　文藝春秋
『そしてバトンは渡された』
瀬尾まいこ著　文藝春秋
『さざなみの夜』木皿泉著　河出書房新社
『三千円の使いかた』原田ひ香著　中央公論新社

短　歌

『花は泡、そこにいたって会いたいよ』
初谷むい著　書肆侃侃房

情　報

『人工知能プログラミングのための数学がわかる本』
石川聡彦著 小学館
『AIが人間を殺す日』小林雅一著　集英社
『文系人間のための「AI」論』高橋透著　小学館
『トコトンやさしいアルゴリズムの本』
坂巻佳寿美著　日刊工業新聞社

自然科学

『小林先生に学ぶ動物行動学』小林朋道著　少年写真新聞社
『今日から使える物理数学　難解な概念を便利な道具にする 』岸野正剛著 講談社
『日本列島の下では何が起きているのか』中嶋淳一著　講談社
『不自然な宇宙　宇宙はひとつだけなのか？』須藤靖著　講談社
『すごい分子　世界は六角形でできている』佐藤健太郎著　講談社
『発達障害に生まれて　自閉症児と母の17年』松永正訓著　中央公論新社
『からだの免疫キャラクター図鑑』岡田晴恵著　日本図書センター
『食物アレルギーキャラクター図鑑』赤沢晃著　日本図書センター

その他

『太陽系観光旅行読本』 オリヴィア・コスキー著　原書房
『鏡の法則　完全版』野口嘉則著　サンマーク社
『15歳のコーヒー屋さん　～発達障害のぼくができることから
ぼくにしかできないことへ～』岩野響著　KADOKAWA
『東大を出たあの子は幸せになったのか』樋田敦子著　大和書房
『思わず人に話したくなる！日本人の名字』森岡浩監修　二見書房